

# 令和5年度 福岡市南区地域包括ケア推進会議

日時：令和5年12月14日（木）  
14：00～15：30  
場所：南区保健福祉センター 講堂

## 次 第

### 1, 開会

### 2, 議題

- 【議題1】 令和4年度地域ケア会議の開催状況 ……資料1
- 【議題2】 令和5年度の各専門部会報告及び取組状況 ……資料2,3,4
- 【議題3】 福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について ……資料5

### 3, その他

### 4, 閉会

#### 令和5年度 南区地域包括ケア推進会議 資料一覧

- |   |         |
|---|---------|
| ■委員名簿/南区地域包括ケア推進会議・専門部会構成団体/福岡市の地域ケア会議と主な機能 | …P1～4   |
| 【資料1-1・1-2・1-3・1-4】 令和4年度地域ケア会議開催実績         | …P5～12  |
| 【資料2-1】「在宅医療・介護部会」「権利擁護部会」合同部会報告（令和5年度）     | …P13～14 |
| 【資料2-2】 令和4年度多職種連携研修会及び市民啓発事業実績             | …P15～17 |
| 【資料3-1】 生活支援・介護予防部会報告（令和5年度）                | …P18    |
| 【資料3-2】 南区社会資源マップ                           | …P19    |
| 【資料4-1・4-2】 南区地域包括ケアの取組み状況                  | …P20～21 |
| 【資料5】 福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について           | …P22    |
| 【資料6】 令和5年度南区地域包括ケア推進会議等開催スケジュール            | …P23    |
- 
- 参考資料1：福岡市南区地域包括ケア推進会議設置要綱
- 参考資料2：南区保健福祉センターにおける高齢者の保健福祉に関する取組み

# 福岡市南区地域包括ケア推進会議委員名簿(令和5年12月現在)

【敬称略・順不同】

役職	氏名	団体名・役職名	備考
会長	野口 秀哉	南区医師会 会長	
副会長	木庭 健太郎	南区民生委員児童委員協議会 会長	
委員	小河 清裕	南区歯科医師会 会長	
委員	山本 和宏	南区薬剤師会 会長	
委員	西嶋 幹生	南区校区社協会会長会 会長(生活支援・介護予防部会 部会長)	
委員	出崎 修三	南区自治組織協議会 副会長	
委員	岩子 喜代子	南区健康推進連合会 副会長	
委員	森山 忠明	南区シニアクラブ連合会 会長	
委員	松尾 省三	南区公民館館長会 代表	
委員	川上 枝美	福岡県介護支援専門員協会 福岡支部地区南 代表	
委員	黒野 賢大	福岡県弁護士会 代表(権利擁護部会部会長)	
委員	永田 修一	福岡県司法書士会 代表	
委員	緒方 未知子	福岡県社会福祉士会 代表	
委員	小山田 望	福岡市老人福祉施設協議会 代表	
委員	平田 明光	認知症の人と家族の会福岡県支部 世話人	
委員	山田 真理子	南区訪問看護ステーション連絡協議会 会長	
委員	山本 友美	南区ソーシャルワーカー連絡協議会 代表幹事	
委員	木山 浩志	福岡県理学療法士会 代表	
委員	赤星 誠美	福岡県看護協会 代表	
委員	村岡 泰典	在宅医療・介護部会 部会長	
委員	江口 純 (代理:柴田 純一)	福岡県南警察署 生活安全課長	
委員	大坪 祐次	福岡市消防局南消防署 予防課長	
委員	小畑 秀紀 執行 睦実	南区保健福祉センター 所長 南区保健福祉センター 保健所長	

## 令和5年度 福岡市南区地域包括ケア推進会議 事務局一覧

	氏 名	所 属	備 考
事務局	吉村 史子	地域保健福祉課長	
事務局	富田 亜由美	地域包括ケア推進係長	
事務局	林 咲子	地域包括ケア推進係	
事務局	廣津 早	地域福祉ネットワーク担当主査	
事務局	定松 邦子	権利擁護等担当主査	
事務局	松本 宏美	地域保健福祉第2係長	
事務局	吉村 公孝	福祉・介護保険課長	
事務局	菊地 利信	地域支援課長	
事務局	石橋 夕紀子	福岡市社会福祉協議会(南区社協事務所) 包括支援課長	
事務局	牧瀬 恵	南第1地域包括支援センター	
事務局	亀田 美和	南第2地域包括支援センター	
事務局	瀬崎 倫子	南第3地域包括支援センター	
事務局	福田 弘子	南第4地域包括支援センター	
事務局	田良島 章智	南第5地域包括支援センター	
事務局	首藤 宏美	南第6地域包括支援センター	
事務局	廣田 篤子	南第7地域包括支援センター	
事務局	赤木 美穂	南第8地域包括支援センター	
事務局	梅野 陽子	南第9地域包括支援センター	
事務局	阿久根 幸子	南第10地域包括支援センター	
事務局	栗田 知子	南第11地域包括支援センター	

# 令和5年度南区地域包括ケア推進会議・専門部会構成団体

【敬称略・順不同】

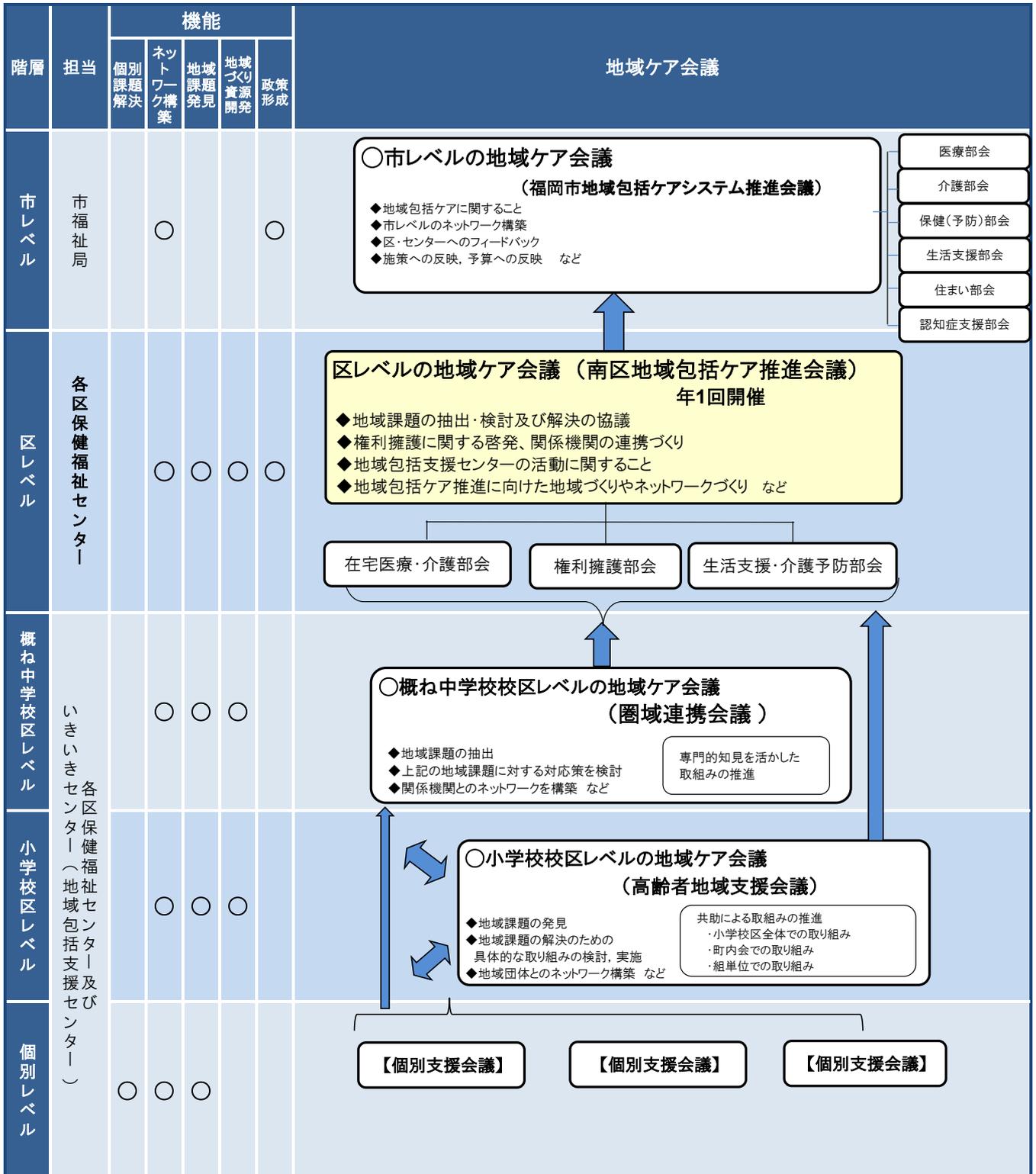
団体名	南区地域包括ケア推進会議	専門部会		
		在宅医療・介護	権利擁護	生活支援・介護予防
南区医師会	2	3	1	
南区民生委員児童委員協議会	1		1	2
南区歯科医師会	1	1		
南区薬剤師会	1	1		
南区自治組織協議会	1			2
南区校区社協会長会	1		1	2
南区健康推進連合会	1			2
南区シニアクラブ連合会	1			2
南区公民館館長会	1			2
南区介護支援専門員協会 福岡支部地区南	1	1	1	1
福岡県弁護士会	1		1	
福岡県司法書士会	1		1	
福岡県社会福祉士会	1		1	
福岡市老人福祉施設協議会	1		1	1
認知症の人と家族の会	1		1	
南区訪問看護ステーション連絡協議会	1	1	1	
南区ソーシャルワーカー連絡協議会	1	1	1	
福岡県理学療法士会	1	1		1
福岡県栄養士会		1		
福岡県看護協会	1			
県警察本部南警察署	1		1	
市消防局南消防署	1		1	
南区保健福祉センター	2			
委員数	24	10	13	15

## 事務局

南区保健福祉センター		○	○	○
地域保健福祉課	○	○	○	○
福祉・介護保険課	○	○		
地域支援課	○			○
南区社協事務所	○	○	○	○
南区地域包括支援センター	○	○	○	○

# 福岡市の地域ケア会議と主な機能

- ▶ 平成26年度の介護保険法改正により、様々な専門職と地域の関係者などが、地域の課題を把握し、課題解決に向けての検討を行う「地域ケア会議」の設置が制度的に位置づけられた。
- ▶ 福岡市においては、平成27年4月から、個別、小学校、中学校区、区、市レベルの各階層に「地域ケア会議」を設置・運営しており、これらを機能させることにより、高齢者が地域で生活しやすい環境整備を重層的に行っていく。



# 令和4年度 地域ケア会議開催実績

資料 1-1

	会議種別	開催日	主な議題	開催回数	
					回数内訳
区レベル 専門部会	南区地域包括ケア推進会議	12/15 対面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度地域ケア会議の開催状況</li> <li>令和3年度の各専門部会報告及び取組み状況</li> <li>福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について</li> </ul>	1回	
	在宅医療・介護部会	6/27 対面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度地域ケア会議開催実績</li> <li>令和3年度地域ケア会議における抽出課題について</li> <li>各団体における令和3年度の取組み状況や成果等、令和4年度の計画</li> <li>救急搬送医療情報シートについて</li> <li>令和3年度在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会及び市民啓発事業(実績)、令和4年度計画(案)</li> <li>福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について</li> </ul>	1回	
	権利擁護部会	8/5 オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度地域ケア会議開催実績</li> <li>高齢者の権利擁護に関する取組み</li> <li>各団体における権利擁護の取組み</li> <li>福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について</li> </ul>	1回	
	生活支援・介護予防部会	9/29 対面開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度地域ケア会議等開催状況</li> <li>生活支援・介護予防の取組みについて</li> <li>福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について</li> </ul>	1回	
概ね 中学校区	圏域連携会議	必要に応じて 随時開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施した圏域連携会議を振り返り、今後効果的な圏域連携会議が実施できるよう地域課題を抽出する(アンケート・インタビュー実施と結果の報告)</li> <li>複合課題を抱える家族の事例を通し、医療、福祉、介護のネットワーク構築をめざす</li> <li>コロナ禍での様々な制限のもと、顔の見える関係性の構築と、医療・介護の業務内容や役割の相互理解を図り、よりよい連携について検討</li> <li>専門職や地域の方にACPを周知し、本人の意思に沿った支援について検討</li> </ul>	4回 (うち3回対面開催、1回書面開催)	
小学校区	高齢者地域支援会議	必要に応じて 随時開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>いきいきセンターふくおかが主催となって、校区社協役員及び民生委員等の地域活動者や、医療・介護等事業所ネットワークと、地域の現状把握や課題の共有、必要な社会資源の検討等について、意見交換やグループワーク等を実施</li> <li>※コロナ禍により「健康なまちづくり懇談会」の場を活用した会議は未実施</li> </ul>	12校区 32回	南1: 2回 南7: 1回 南2: 3回 南8: 0回 南3: 1回 南9: 1回 南4: 8回 南10: 2回 南5: 12回 南11: 2回
個別レベル	個別支援会議	必要に応じて 随時開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経済的困窮、親子関係など、家族問題に関わるもの」「単身あるいは高齢夫婦だけの世帯で日常生活は自立しているが、判断能力に問題がある」「実質的なキーパーソンが不在」など、複合課題を抱えたケースの対応について検討</li> <li>コロナの影響で、医療及び介護サービスの利用自粛や地域の方の見守りが少なくなり、セルフネグレクト、高齢者虐待のケースについて検討</li> <li>自立支援・介護予防の観点で踏まえ、課題解決・状態の改善・生活の向上に向けた検討</li> </ul>	114回 (うち介護予防型個別支援会議22回)	

※包括=いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)

《参考》

包括名	担当小学校区	包括名	担当小学校区	包括名	担当小学校区
南1	塩原, 玉川	南5	弥永, 弥永西	南9	大楠, 西高宮
南2	長住, 長丘, 西長住(城南区内を除く)	南6	鶴田, 老司	南10	筑紫丘, 東若久
南3	野多目, 三宅	南7	柏原, 花畑	南11	西花畑, 東花畑
南4	日佐, 高木, 横手, 宮竹(博多区内を除く)	南8	大池, 若久		

令和4年度 地域ケア会議(圏域連携会議)の開催状況(令和4年4月～令和5年3月末)

包括	担当校区	開催目的	開催日 出席者	内容 検討項目	検討結果や主な意見	課題	圏域連携会議後の課題解決 に向けた取り組み等
南2	長住・長丘・西長住	これまで実施した圏域連携会議を振り返り、今後効果的な圏域連携会議が実施できるよう地域課題を抽出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書面開催</li> <li>・医師 4人</li> <li>・歯科医師 7人</li> <li>・薬剤師(薬局) 9人</li> <li>・訪問看護師 2人</li> <li>・居宅介護支援事業所 12人</li> <li>・介護サービス事業所 17人</li> <li>・障がい者基幹相談支援センター 1人</li> <li>・区社協 1人</li> </ul> <p>計53人</p>	<p>【検討項目(書面開催の狙い)】</p> <p>圏域内の医療機関・介護事業所が、圏域連携会議をどのように考えているのか、また、今後の連携に必要なことを把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケートとインタビュー実施</li> <li>・地域ケアシステムに関するもの(理解について)</li> <li>・圏域内の医療と介護の連携に関するもの(現状把握、課題、連携のために必要なもの)</li> </ul> <p>↓</p> <p>「令和4年度圏域連携会議アンケートのまとめ」「2022年度 福岡市南第2地域包括支援センター 圏域概況について」「地域ケア会議についてのリーフレット」を画面にてフィードバック。</p> <p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の意識や圏域連携会議に期待する事が分かった。</li> <li>・連携にあたり、「顔の見える関係、役割の理解、医療と介護の仲介役」が必要。</li> <li>・医療と介護が連携するには、窓口や連絡手段が明確になると、もっと連携がとりやすくなる。</li> <li>・医療と介護お互いに多忙であるが、利用者支援の為、連携の積み重ねが必要。その結果をお互いにフィードバックし、更なる連携に繋げていく事が必要。</li> <li>・専門職の連携に加え、本人や家族の高齢期への備え、啓発が必要である。</li> <li>・「独居、キーパーソン不在、認知症」のテーマに多くの方が興味をもち、ACPを含めたそれらの課題への取り組みが求められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防が必要と考える人が多いことから、区と連携し介護予防の推進について検討する。</li> <li>・ACPを含めた独居、キーパーソン不在、認知症の方への支援の取り組みが求められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーパーソン不在、独居、認知症高齢者等の生活を支えられるよう、7月に成年後見制度の研修をケアマネジャー向け計画。</li> <li>・圏域内の歯科医院、薬局を訪問し、顔の見える関係づくりを構築する。</li> <li>・校区保健師と協同し、サロンを巡回。介護予防を推進する。</li> <li>・圏域向けにACP研修を開催し、各専門職が「本人の想い」を理解、引出し、支援に繋がられるよう支援する。</li> <li>・コロナ禍で、縮小されていた圏域内の事業所間の関係づくりを再構築。医療と介護の連携に取り組む。</li> </ul>
南8	大池・若久	複合課題を抱える家族の事例を通し、医療、福祉、介護のネットワーク構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対面開催</li> <li>・医師 3人</li> <li>・歯科医師 2人</li> <li>・薬剤師 6人</li> <li>・訪問看護師 1人</li> <li>・訪問リハビリ 1人</li> <li>・MSW 3人</li> <li>・介護支援専門員 9人</li> <li>・介護サービス事業所 3人</li> <li>・障がい基幹相談支援センター 2人</li> <li>・区社協 1人</li> <li>・その他(ひきこもり支援センター等) 2人</li> <li>・区・包括職員 7人</li> </ul> <p>計40人</p>	<p>【検討項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の認知症専門医より、複合課題を抱える家族支援について講話。</li> <li>・複合課題を抱える家族の事例紹介。</li> <li>・事例を通して、課題、職種の視点から考えることについてグループワーク。</li> </ul>	<p>【出された意見】</p> <p>事例検討会を通して、「それぞれの職種から専門的な意見が聞けた。」「多職種の意見を聞き、自分にはない視点で考えることができた。」「多職種と連携が今後の在宅支援に欠かせない事だと改めて理解ができた。」</p> <p>【検討結果】</p> <p>複合課題を抱える家族の事例を通して、多職種が互いに連携を取り、協力しながら同じ目標に向かっていくことの大切さを改めて考える機会となった。新型コロナウイルスの影響が続くなか、多職種と交流できる場も少ない。「多職種と交流ができて良かった。顔の見える関係性が構築できた」等のコメントもあった。初参加の病院や事業所、関係機関も多く、顔の見える関係づくりのきっかけの場となったと考える。圏域内の事例を用いた事で、より身近な問題として捉え、お互いの業務の役割の理解や連携体制の構築、ネットワークづくりについて、考えることができたと思われる。</p>	<p>複合課題を抱えるケースが増加傾向にある事から、今後も医療機関や各関係機関に、圏域連携会議の必要性など周知していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援相談時は、医療・介護・地域と密に連携を図り、地域全体で連携体制をつくれるよう努めた。</li> <li>・地域も巻き込み対応に苦慮したケース等は、民児協定例会で支援内容のフィードバックを実施。民生委員にも個別支援会議に出席してもらおう等、地域にも連携体制の構築や業務の役割の理解を促している。</li> </ul>
南9	大楠・西高宮	コロナ禍で様々な制限下、対面での連携が難しい状況が続いている。顔の見える関係性の構築と医療・介護の業務内容や役割の相互理解を図り、よりよい連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対面開催</li> <li>・看護師 2人</li> <li>・MSW 7人</li> <li>・介護支援専門員 9人</li> <li>・介護サービス事業所 1人</li> <li>・区・包括職員 7人</li> </ul> <p>計26人</p>	<p>【検討項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コロナ禍を経験し、退院時連携を考える」をテーマに、医療、介護、それぞれの業務内容・役割の紹介(各職種より発表)</li> <li>・意見交換</li> </ul>	<p>【出された意見や質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ陽性者の搬送について、どのような事業所が対応しているのか。</li> <li>・包括が銀行、郵便局、銀行を巡回していると説明があったが、どのような活動内容か知りたい。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の取り組みについて知っているが、現状はどのようか？住民の認知症に関する関心・理解が低い様に感じる。</li> <li>・圏域の2つの病院の面会制限について知りたい、柔軟な対応は難しいのか？</li> <li>・小規模多機能居宅支援事業所にどのような人が適しているか、繋ぐタイミングも知りたい。</li> <li>・訪問診療を開始するうえで注意する事、本人や家族に説明しておいた方がいい事は？</li> </ul> <p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での専門職間の顔が見える関係づくりの場の減少が続いている。相互理解やニーズのすり合わせは今後も必要。</li> <li>・コロナ禍で面会制限等ある中での連携、支援は柔軟に行っているが、支援困難は続いている。</li> <li>・複合課題を抱える人、身寄りのない独居者への支援が困難。</li> <li>・住民の認知症の人への関心、理解が不十分。</li> </ul>	<p>専門職が参加できる複合課題の成功事例を含めた事例検討会や研修など開催し、継続したネットワークの強化が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域レベルでの専門職との会議、定例会等を継続し、ネットワークを強化。</li> <li>・圏域の地域住民対象に、自己決定支援(ACP)や認知症について研修会実施予定。</li> </ul>

令和4年度 地域ケア会議(圏域連携会議)の開催状況(令和4年4月～令和5年3月末)

資料1-2

包括	担当校区	開催目的	開催日 出席者	内容 検討項目	検討結果や主な意見	課題	圏域連携会議後の課題解決 に向けた取り組み等
南 11	西 花 畑 ・ 東 花 畑	<p>・専門職や地域の方にACPを周知し、今後の高齢者支援に活かしてもらおう。</p> <p>・ACPIについての意識が高まり、本人の意思に沿った支援ができる。</p>	<p>●対面開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医師 1人</li> <li>・薬剤師(薬局) 5人</li> <li>・訪問看護師 4人</li> <li>・MSW 2人</li> <li>・居宅介護支援事業所 3人</li> <li>・介護サービス事業所 20人</li> <li>・民生委員 2人</li> <li>・その他(病院広報担当) 1人</li> <li>・区、包括職員 8人</li> </ul> <p>計46人</p>	<p>【検討項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきセンターより：ACPIに関する聞き取りの実践報告</li> <li>・市社協より：「ACPを知ろう」について講話</li> <li>・グループワーク：「あなたが思うACP～本人の思いをつなげるために～」テーマで、自分ができるACPの取り組みをイメージしてもらおう。</li> </ul>	<p>【出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話の中で聞き取りをしていくことや、年齢に関係なく自分の事として考える事が大切。</li> <li>・本人と家族の意向が違ふ事例、身寄りなく認知症が進行してしまったことから聞き取りができなかった事例等に困った事があった。</li> <li>・家族や地域を含めて、若い時から話し合っておくことが大事。</li> </ul> <p>【検討結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ACP」という言葉自体まだ浸透しきれていない状況があり、まずは入り口段階として、ACPを「知ってもらうこと」「意識してもらうこと」ができた。今回対面で会議が開催できた為、多職種連携や圏域内のネットワークを強化する事もできた。今後、ACPを支援者同士で「つないでいき、高齢者の「その人らしい」生き方を住み慣れた地域全体で支えていけたら良い。</li> </ul>	<p>コロナ禍の影響や社会背景から「認知症」「キーパーソン不在」等高齢者の課題に加え、家族の抱える課題が影響し、問題が深刻化している事例が増えている。ACPを早い段階で意識づけし、対象者の意思に沿った支援が出来るよう、ACPの普及啓発が急がれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の相談事例を通して、対象者のご家族へ本人の意思確認の必要性を意識して説明している。</li> <li>・地域に向けて認知症の理解促進（認知症サポーター養成講座での啓発等）を意識した活動を計画している。</li> <li>・住民や専門職にもACPの啓発を続け、ACPのつなぎ方や、つないでいくためのツールの活用について引き続き、会議で検討したい。</li> </ul>

令和4年度 地域ケア会議(高齢者地域支援会議)の開催状況

資料 1-3

No	校区	担当 包括	開催 回数	出席者の所属団体							テーマ (または、活用した会議名称)	主な開催目的				検討項目	会議で出た意見、検討結果		
				自治協議会	校区社会福祉協議会	民生委員	公民館	その他地域団体	医療・介護等事業所ネットワーク	区社協職員		その他(区含む)	現状把握	課題整理	資源開発			ネットワーク構築	
1	塩原	南1	1回			○		○	○	○	○	「高齢者地域支援会議～大橋団地編～」		○	○		① いきいきセンターふくおかでの大橋団地の相談状況の報告 ② 民生委員等が受けている相談内容の共有 ③ ②の解決のために必要な社会資源の検討	・地域に認知症の正しい知識、地域の介護保険事業所、介護サービス内容等について知ってもらう機会が必要 ・男性が参加しやすい地域活動が必要	
2	塩原	南1	1回			○			○	○		「塩原校区における相談状況を知って話し合ってみよう」		○	○		① いきいきセンターふくおかでの塩原校区の相談状況の報告 ② 民生委員が受けている相談内容の共有 ③ ②の解決のために必要な社会資源についてグループワーク	・単身世帯や入れ替わりが多い集合住宅の方の見守り方法に苦慮されており、関係者との連携が必要 ・支援者視点だけでなく、当事者視点での必要な支援の検討機会が必要 ・医療・介護等事業所ネットワークに介護講座等を依頼することで地域との関係構築に繋げる	
3	西長住	南2	1回			○		○	○	○		「西長住3丁目2区ふれあいネットワーク活動について」	○	○			ふれあいネットワーク活動における現状と課題を情報共有	・実際の見守り方法・対応方法等について確認 ・見守り活動は年単位での長期的視点での関わりが必要 ・いきいきセンターふくおかは区社協とも連携しながら、チラシ配布等の情報提供、関係者で協議できる場をつくる、見守りの手順書やマップの作成等の支援を行う	
4	長丘	南2	1回		○	○			○	○		「医療・介護等事業所ネットワーク長丘住んでよか隊の今後の活動について」	○			○	① これまでの活動の振り返り ② 今後の活動について長期目標(コロナ明けに向けた活動の方向性)と短期目標(今できることの検討)	・医療・介護等事業所ネットワーク内の“横のつながり”を維持するため連絡網の整備、定例会の再開 ・「よか隊だより」発行を再開し地域へ広報	
5	長住 西長住	南2	1回						○	○	○	「長住・西長住校区高齢者地域支援会議」				○	○	① 医療・介護等事業所ネットワーク活動の振り返り ② 「高齢者が地域で暮らし続けるために、私たちに何ができるのか」についてグループワーク ③ ②について意見交換	・専門性を活かした相談や講座、施設を活用した地域防災や施設見学会、次世代に向けた取組み、医療・介護等事業所ネットワークならではの“横のつながり”を活かした取組み等さまざまな活動の可能性を共有 ・医療・介護等事業所ネットワークが主体となった定例会再開の検討

令和4年度 地域ケア会議(高齢者地域支援会議)の開催状況

資料 1-3

No	校区	担当 包括	開催 回数	出席者の所属団体							テーマ (または、活用した会議名称)	主な開催目的				検討項目	会議で出た意見、検討結果	
				自治協議会	校区社会福祉協議会	民生委員	公民館	その他地域団体	医療・介護等事業所ネットワーク	区社協職員		その他(区含む)	現状把握	課題整理	資源開発			ネットワーク構築
6	三宅	南3	1回		○	○		○	○	○	「地域で出来る見守り支援」	○		○		① 徘徊高齢者の事例についてグループワーク ② ①について発表・情報共有	・見守り活動は地域住民の助け合いのみならず、フォーマル・インフォーマルの多様な機関とのネットワーク作りが必要	
7	高木	南4	6回	○		○		○	○		高木団地における高齢者地域支援会議		○	○		① 住民向けに生活支援の相談窓口を示した掲示物の作成・掲示場所の検討 ② 団地高齢者を対象とした健康イベントの企画・開催・振り返り ③ 今後の活動についての検討	・イベントきっかけで住民同士の交流に繋がっており次年度も継続した開催を検討 ・役員の高齢化、次世代の担い手不足の課題あり	
8	横手	南4	2回		○		○	○	○	○	医療・介護等事業所ネットワーク「つなぐ応援隊」の今後の活動について	○		○		・「つなぐ応援隊」の規約確認、会計報告 ・今後の活動内容について確認	・行方不明高齢者の早期発見・保護対策活動の継続 ・「よこの手カフェ」での介護相談の継続実施 ・家族介護のつどい「よってこ会」の継続開催 ・認知症の方への声掛けの仕方、捜索訓練実施の検討	
9	弥永	南5	11回		○	○			○	○	高齢者地域支援会議 ※医療・介護等事業所ネットワーク「ほっとかれん隊」関係者定例会議と同時開催	○		○		・「ダイキョーカフェ」の実施内容確認と振り返り ・認知症サポーター養成講座の実施内容確認と振り返り ・認知症行方不明者声掛け訓練の実施内容確認と振り返り ・ポスター「よろず110番」の作成・掲示場所検討 ・地域課題情報の共有	・医療・介護等事業所ネットワーク「ほっとかれん隊」と協議が必要な議題については都度高齢者地域支援会議の場で検討していく	
10	弥永西	南5	1回		○	○			○	○	弥永西校区高齢者地域支援会議	○		○		・校区社会福祉協議会向け研修会の内容確認 ・認知症行方不明者声掛け訓練の実施内容確認	・認知症高齢者が増加している現状を受け、研修会にて認知症理解促進のための研修実施を計画 ・次年度は認知症行方不明者声掛け訓練を実施予定 ・校区の小学校に認知症キッズサポーター養成講座の次年度実施を提案	

令和4年度 地域ケア会議(高齢者地域支援会議)の開催状況

資料 1-3

No	校区	担当 包括	開催 回数	出席者の所属団体							テーマ (または、活用した会議名称)	主な開催目的				検討項目	会議で出た意見、検討結果				
				自治協議会	校区社会福祉協議会	民生委員	公民館	その他地域団体	医療・介護等事業所 ネットワーク	区社協職員		その他(区含む)	現状把握	課題整理	資源開発			ネット ワーク 構築			
11	花畑	南7	1回	○			○	○						花畑校区高齢者地域支援会議 「ウォーキングマップ作成について」		○	○			地域の課題を踏まえ、ウォーキング マップ作成検討にあたり、地域の声 の聴取・分析	・マップに買い物場所、トイレ休憩場所、地域の自然な などのランドマークを分かりやすくマップに反映させる ・ウォーキングマップは外出するきっかけに繋がり、1 人でも取り組みやすいことから高齢者に活用してほしい
12	西高宮	南9	1回	○		○					○	○		西高宮校区意見交換会 「平和1丁目・2丁目の地域情報 の共有」	○				○	① いきいきセンターふくおかでの 相談状況・統計データの報告 ② 町内会長・民生委員から見た地 域情報の共有	・事例を通していきいきセンターふくおかの役割が周 知できた ・同じ町内で協働していきたいという意識の共有がで きた
13	筑紫丘	南10	1回	○	○	○					○	○	○	第1回ちくいちいきいき懇談会 「自分らしく暮らし続けるまち づくり」	○	○			① 校区統計データ・校区アンケート 結果の報告 ② 各団体の役割や取組みの紹介 ③ 地域情報・地域課題の共有	・地域情報や課題を関係者間で共有できるような関係 構築を目指し地域見守り体制強化が必要 ・広い世代に対しいきいきセンターふくおかの周知が 必要	
14	筑紫丘	南10	1回	○		○		○	○	○		○		第3回若久団地高齢者地域支 援会議 「高齢者がひとりでも安心して 暮らせる若久団地」			○	○	① 若久団地の統計データの報告 ② 過去2回の若久団地高齢者地域 支援会議の振り返り ③ 介護予防や孤立化防止の集いの 場について情報交換 ④ 高齢者見守り体制における個人 情報取り扱いルールの確認・他校区 の取組み事例の紹介	・毎年開催されることで顔の見える関係が構築され相 談しやすくなった ・会議を通じて得た社会資源情報を集約し、今後の集 いの場の活用推進を支援	
15	東花畑	南11	1回										○	東花畑校区高齢者地域支援会 議 「医療・介護等事業所ネット ワークの再構築・地域支援につ いて」	○				○	① 校区の概要、地域課題について 報告 ② 今後の医療・介護等事業所ネット ワークの活動について検討	・校区内に介護事業所は少ないが、少ないからこそ対 応力や機動力は強み ・地域活動は停滞しているが各事業所の協力意思は確 認できた

令和4年度 地域ケア会議(高齢者地域支援会議)の開催状況

資料 1-3

No	校区	担当 包括	開催 回数	出席者の所属団体							テーマ (または、活用した会議名称)	主な開催目的				検討項目	会議で出た意見、検討結果	
				自治協議会	校区社会福祉協議会	民生委員	公民館	その他地域団体	医療・介護等事業所 ネットワーク	区社協職員		その他(区含む)	現状把握	課題整理	資源開発			ネット 構築 ワーク
16	西花畑	南11	1回						○	○	西花畑校区高齢者地域支援会議 「医療・介護等事業所ネット ワークの再構築・地域支援につ いて」	○			○	① 校区の概要、地域課題について 報告 ② 今後の医療・介護等事業所ネット ワークの活動について検討	・各事業所ともコロナ禍がひと段落し、地域に向けたカ フェや他事業所との連携を再開したいという協力意思 が確認できた	

議種別	開催回数		出席者	主な議題等	課題																																																		
	回数内訳																																																						
個別支援会議（個別レベル）	合計	92回	<table border="1"> <tr> <td>民生委員</td> <td>29</td> <td>区</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>公民館</td> <td>1</td> <td>消防</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>地域団体</td> <td>9</td> <td>基幹相談支援センター</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療・薬局</td> <td>24</td> <td></td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>居宅介護支援(事)</td> <td>66</td> <td>その他</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>権利擁護機関</td> <td>1</td> <td>(本人・家族・UR等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護サービス(事)</td> <td>76</td> <td>他包括</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他行政機関</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>市・区社協</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">合計 396</td> </tr> </table>	民生委員	29	区	64	公民館	1	消防	1	地域団体	9	基幹相談支援センター		医療・薬局	24		31	居宅介護支援(事)	66	その他	79	権利擁護機関	1	(本人・家族・UR等)		介護サービス(事)	76	他包括	4	その他行政機関	3			市・区社協	8			合計 396				<p>○ 全92回の内訳(重複あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症…………… 36件(39%)</li> <li>・精神疾患…………… 24件(26%)</li> <li>・単身高齢者…………… 36件(39%)</li> <li>＊地域役員等の参加あり… 21件(22%)</li> </ul> <p>○主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、弟の二人暮らし。本人が室内で転倒したと弟からSOSあるも、経済的理由で受診させず安否確認が取れなかった。翌月に警察・区も介入し、一旦安否確認は出来たが、その後の状況不明。処遇困難ケースとして介入を試みたが、弟の拒否が強く、いきいきセンターとの関係も切れている状態。地域から市動物愛護センターに、本人宅が飼っている猫(9匹)の苦情が入った為、動物愛護センター、地域を含め情報共有を行い、今後の支援(アプローチ・役割分担等)について検討。</li> <li>・本人と精神疾患(統合失調症・引きこもり)がある長男と二人暮らし。現在、高齢の本人が、長男支援を行っているが、加齢により負担が大きくなっている。本人が長男支援できなくなると、長男一人での生活は困難である。東京在住の長女・障がい者基幹相談支援センターと今後の親子支援について、検討、役割分担を協議。</li> <li>・認知症の本人と夫、うつ病(60代無職)の長男と3人暮らし。夫は元来、家族に対して威圧的で、本人及び長男に暴言・暴力がある状況。長男を支援している障がい者基幹相談支援センターを含む関係者において、情報共有・役割分担・支援方針について協議。</li> </ul>	<p>○令和4年度は、昨年に比べ開催回数は増加。課題が多く支援が長期化するため、夫婦・親子世帯・同ケースで繰り返し開催したケースも増えた。</p> <p>○「同居の家族が精神疾患(うつ、統合失調症等)発達障害などを抱えている」「経済的困窮、親子関係など、家族問題に関わるもの」「認知症で実質的なキーパーソンが不在」など、複合課題課題を抱えたケースの割合は多い。複合課題に対応する為には、多職種がそれぞれの得意分野の「違い」を強みとして、関係を築いて対応する必要がある。</p> <p>○認知症で実質的なキーパーソンが不在なケースについて、地域住民から対応に困り、いきいきセンターへ相談が入るケースが増加。事業所ネットワークの活性化や地域における見守り体制など、地域のコミュニティ強化が課題である。</p>										
		民生委員	29	区	64																																																		
公民館	1	消防	1																																																				
地域団体	9	基幹相談支援センター																																																					
医療・薬局	24		31																																																				
居宅介護支援(事)	66	その他	79																																																				
権利擁護機関	1	(本人・家族・UR等)																																																					
介護サービス(事)	76	他包括	4																																																				
その他行政機関	3																																																						
市・区社協	8																																																						
合計 396																																																							
	22回	<table border="1"> <tr> <td>南1包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南2包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南3包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南4包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南5包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南6包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南7包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南8包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南9包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南10包括:</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>南11包括:</td> <td>2回</td> </tr> </table>	南1包括:	2回	南2包括:	2回	南3包括:	2回	南4包括:	2回	南5包括:	2回	南6包括:	2回	南7包括:	2回	南8包括:	2回	南9包括:	2回	南10包括:	2回	南11包括:	2回	<p>(出席者の内訳)</p> <table border="1"> <tr> <td>理学療法士(助言者)</td> <td>10</td> <td>介護事業所</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>作業療法士(〃)</td> <td>12</td> <td>市・区</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士(〃)</td> <td>10</td> <td>他包括(事務局含む)</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士(〃)</td> <td>23</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士(〃)</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区社協</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">合計 141</td> </tr> </table>	理学療法士(助言者)	10	介護事業所	4	作業療法士(〃)	12	市・区	22	言語聴覚士(〃)	10	他包括(事務局含む)	36	管理栄養士(〃)	23			歯科衛生士(〃)	12			区社協	12			合計 141				<p>○主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援1・妻と二人暮らし・週1回DS利用。現在、糖尿病、高脂血症、筋膜性腰痛症。助言を受けたい内容:①腰に負担がかからない運動について②嚥下に支障あり、有効な口腔体操③体重減少あり(BMI18)、糖尿病にも良い食事について、専門性に基づいた助言を得る。</li> <li>・女性・要支援2・子世帯と同居。今まで健康管理には人一倍気を遣い、自信も持っていた。しかし、畑仕事中心で尻もちをつき圧迫骨折し、自信を無くしたケースについて、本人の自信が復活し、骨折してもできる役割を作れる様、生活の質の向上を目指し多職種で協議。</li> <li>・女性・要支援1・単身。元民生委員で様々なボランティアとして活動している。地域への発信力もあり、自身の介護予防への意識の高い方。DS利用していたが、ボランティアの時間を取りたいと、DSを中止し自身の生活の中で介護予防を実践するため専門職の助言を得る。</li> </ul>	<p>○閉じこもり傾向にある高齢者が、自身で歩いて行ける所にサロンやサークル活動があれば、参加しやすくなる。</p> <p>○地域資源として、本人やCMが気軽に、栄養相談できる窓口があれば良い。</p> <p>○怪我や病気をしないように注意する事も大事だが、怪我や病気に後本人の役割が喪失しないように、先を見据えた関りが重要である。</p> <p>○災害時に一人で避難できない方に対して、日頃より地域で声を掛け合うなど、地域のネットワークを広げておく事が重要である。</p> <p>○高齢になっても趣味活動や地域貢献に意欲を持って参加し、充実した生活を送っている方が、継続して活動できる場が減らない様に、移動手段の確保や公共交通機関の充実が課題である。</p>
南1包括:	2回																																																						
南2包括:	2回																																																						
南3包括:	2回																																																						
南4包括:	2回																																																						
南5包括:	2回																																																						
南6包括:	2回																																																						
南7包括:	2回																																																						
南8包括:	2回																																																						
南9包括:	2回																																																						
南10包括:	2回																																																						
南11包括:	2回																																																						
理学療法士(助言者)	10	介護事業所	4																																																				
作業療法士(〃)	12	市・区	22																																																				
言語聴覚士(〃)	10	他包括(事務局含む)	36																																																				
管理栄養士(〃)	23																																																						
歯科衛生士(〃)	12																																																						
区社協	12																																																						
合計 141																																																							

※ 個別支援会議:医療や介護の専門職と地域住民が連携して、情報共有、見守り体制づくり、関係者間の連携体制強化などを旨とする。  
 介護予防型個別支援会議:自立支援・介護予防の観点から、要支援者等の生活行為の課題解決、状態の改善、ひいては生活の質の向上を目指す。

**令和 5 年度 福岡市南区地域包括ケア推進会議  
「在宅医療・介護部会」「権利擁護部会」合同部会 報告**

<b>開催日時</b>	令和 5 年6月 26 日(月) 19:00~20:30
<b>会場</b>	南区保健福祉センター 講堂
<b>出席者</b>	委員 21 名、オブザーバー6 名、事務局 18 名
<b>内容</b>	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介・事務局紹介</p> <p>3 議事(書面報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題① 令和 4 年度 地域ケア会議開催実績</li> <li>・議題② 各団体における令和 4 年度の取り組み状況や成果等、令和 5 年度の計画</li> <li>・議題③ 救急搬送医療情報シートについて</li> <li>・議題④ 各団体における権利擁護の取り組み(令和 4 年度及び令和 5 年度)</li> <li>・議題⑤ 南区保健福祉センター及び地域包括支援センターにおける権利擁護の取り組み</li> <li>・議題⑥ 令和5年度南区地域包括ケア推進会議等開催スケジュール(案)</li> </ul> <p>5 グループワーク (テーマ:複合課題)</p> <p>6 講評</p> <p>7 各団体からのお知らせ</p> <p>令和 4 年度在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会及び市民啓発事業(事績)、令和 5 年度計画(案)</p> <p>8 南区保健福祉センター所長 閉会の言葉</p> <p>9 閉会</p>

<p><b>主な意見、 検討結果等</b></p>	<p>○令和4年度の「在宅医療・介護部会」と「権利擁護部会」から出された課題がそれぞれ「複合課題に対応できる多職種の相互理解と連携の強化」、「適切な介入とアセスメント力の向上及び関係者による連携した支援」であり、複合問題という共通課題に対する相互理解を深めるために、令和5年度は2つの部会を合同部会として実施した。</p> <p>○議事は各部会の取り組みや計画を書面報告することでお互いの部会の職種の活動を知るきっかけとした。</p> <p>○グループワークは、多職種のワーキングメンバーで開発した「複合課題に『気づき・つながる』研修パッケージ」を活用。「課題が深刻化する前段階で、自身の関りの中で複合課題に気づき・つながろうとする関係者のすそ野を広げる」ことを目的に「視点の違いを体感するワーク」を実施した。</p> <p>○通常の部会の委員としては参加していない南区障がい者基幹相談支援センターからもオブザーバー参加として参加。</p> <p>○グループワークにより、普段関わらない職種の意見を聞き、ケースに対しどのような視点を持って関わっているのかを知れたので、自分の団体でも共有したいとの意見があった。</p> <p>○事後アンケートでは、他の部会を知るという面、横のつながり・連携という面や、新たな気づき・視点が広がるといった面から、今後の合同部会やグループワークへの開催希望が多かった。</p> <p>○様々な職種がそれぞれの立場で感じた気づきを各団体に共有し、連携促進のきっかけとなることを期待する。</p>
-------------------------------	---

## 令和 4 年度 多職種連携研修会及び市民啓発事業実績

## ＜多職種連携研修会＞（敬称略）

回	日時等	内容	参加者数
1	8 月 29 日(月) 19:00～20:20 Web 研修会	●テーマ「ヤングケアラー」  1.関係団体からのお知らせ 南区薬剤師会 理事 小庄 修明 福岡県栄養士会 修行 さやか 2.演題「家族のケアをする子どもたち ～ヤングケアラー～」 講師 特定非営利活動法人 SOS こどもの村 JAPAN 福岡市ヤングケアラー相談窓口 西原 雅子 野村 幸司	100 名
2	11 月 28 日(月) 19:00～20:30 (福岡市男女共同参 画推進センター 「アミカス」)	●テーマ「身寄りなし高齢者の退院支援」  1.報告 「『身寄り』がない方の入退院支援の現状について」 夫婦石病院 医療ソーシャルワーカー 山本 友美 2.グループワーク 「『身寄り』のない高齢者を地域で支えよう！」	72 名
3	3 月 17 日(金) 19:00～21:00 (福岡市男女共同参 画推進センター 「アミカス」)	●テーマ「これからのケアとまちづくり」  ・演題 「老、病、死、喪失を受けとめ、助け合う ～『コンパッション』に支えられた コミュニティをめざして～」 ・講師 静岡大学 未来社会デザイン機構 副機構長 農学部・創造科学技術大学院 教授 竹之内 裕文	76 名

## ＜市民啓発事業＞（敬称略）

● ACPIに関する市民啓発 「もしバナゲームとエンディングノートで始める私の終活」  
(2 回シリーズ)

回	日時等	内容	参加者数
1	11 月 1 日(火) 13:30～15:00 (南区市民センター)	◎1 回目 「もしも」のときの話し合い ～人生会議(ACP)について～ むらおかホームクリニック 院長 村岡 泰典 " 益本 公宣	29 名
2	11 月 15 日(火) 13:30～15:00 (南区市民センター)	◎2 回目 マイエンディングノートを書いてみましょう 福岡市社会福祉協議会 終活サポートセンター 川崎 真帆	23 名

## ● 在宅医療に関する普及啓発

※対面での開催は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止し、「冊子版 区民と医師との会(vol.2)」を製作。

令和5年3月 【冊子配布】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子版 「区民と医師との会」Vol.2 ～南区で自分らしく、暮らし続けるために～</li> <li>・啓発内容 「在宅医療について」 「在宅医療に関連する疾患等の情報について」 「多職種役割・在宅療養の事例紹介」等</li> </ul>	—
------------------	--	---

## 令和5年度 多職種連携研修会及び市民啓発事業実績（敬称略）

多職種連携研修会	【在宅療養患者に関わる専門職が相互に役割を認識し、連携強化のための実践的な手法等を学ぶ】			
	回	開催日・場所	内容	参加者
	1	9月11日(月) 19:00～20:20 (九州中央病院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演「訪問看護の制度(基本から最新まで)」 事例紹介「退院時共同指導および退院支援指導の活用」 講師： 楽らくサポートセンター レスピケアナース 管理者・在宅看護専門看護師 山田 真理子</li> <li>○講演「精神科訪問看護の実際」 講師： ウィル訪問看護ステーション福岡 代表 落合 実</li> <li>○新規訪問看護事業所紹介</li> </ul>	167名
	2	12月19日(火) 19:00～20:30 (福岡赤十字病院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演「ACP(アドバンス ケア プランニング)を地域で展開するためには」(仮題) 講師： 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 看護学科長 教授 片山 陽子</li> </ul>	
3	3月予定	未定		

## 市民啓発

## 【各公民館で在宅医療の啓発】

## ●区民と医師との会

回	開催日・場所	内容	参加者
1	9月2日(土) 14:00~15:30 (野多目公民館)	○「在宅医療ってなあに？」 講師:医)優誠会けやごう内科・胃腸内科クリニック 岩下 亮子 ○「訪問看護について」 講師:楽らくサポートセンター レスピケアナース 山田 真理子	60名
2	9月6日(水) 14:00~15:30 (大池公民館)	○「認知症の話」 講師:社)ほほえみ会寺塚クリニック 井上 展聡 ○「ケアマネの役割について」 講師:居宅介護支援事業トウモロウ 川上 枝美	32名
3	9月7日(木) 14:00~15:30 (西花畑公民館)	○「在宅医療と『もしも』の話」 講師:むらおかホームクリニック 村岡 泰典 ○「ソーシャルワーカー(SW)をご存知ですか？」 講師:夫婦石病院医療相談室医療ソーシャルワーカー 山本 友美	38名
4	12月16日(土) (塩原公民館)	○「未定」 講師:医)ひのでクリニック 中村 幸泰 ○「未定」 講師:南区薬剤師会 理事 小庄 修明	

## 【人生の最終段階における医療・ケア決定(ACP)に関する啓発】

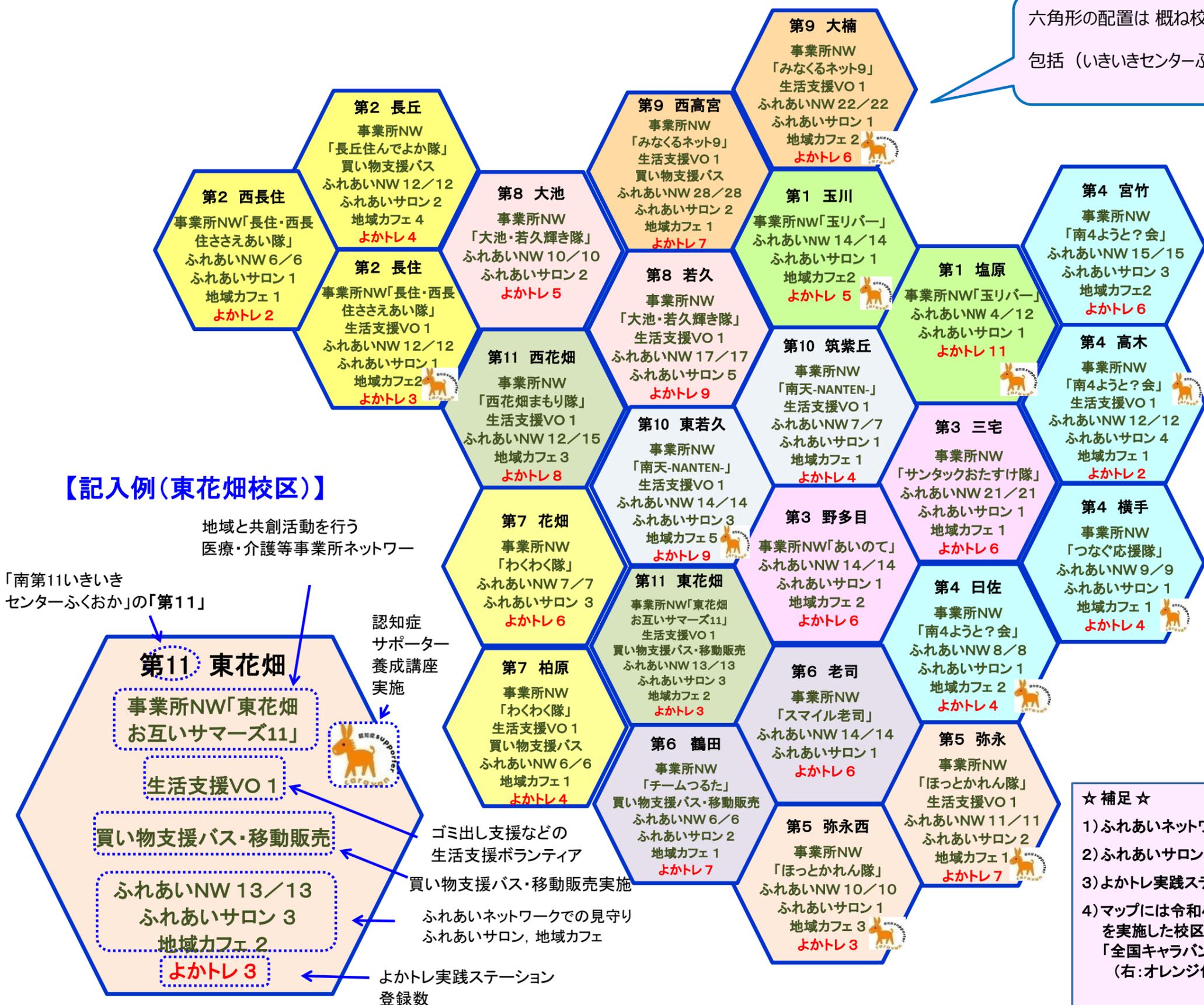
## ●ACPに関する市民啓発「今日から始める私の終活・人生会議～入門編～」(2回シリーズ)

回	開催日・場所	内容	参加者
1	10月31日(火) 14:00~15:30 (南区保健福祉 センター)	1. 講演「『もしも』のときの話し合い ～人生会議(ACP)について～」 講師:むらおかホームクリニック 村岡 泰典 2. もしものときのための『もしバナゲーム』講座 講師:むらおかホームクリニック 益本 公宣	24名
2	11月7日(火) 14:00~15:30 (南区役所)	「マイエンディングノートを書いてみましょう」 講師:福岡市社会福祉協議会終活サポートセンター 吉田 時成	23名

## 令和5年度 南区地域包括ケア推進会議 生活支援・介護予防部会 報告

開催日時	令和5年10月3日(火) 14:00~15:30
会場	南区役所 大会議室
出席者	委員 14名、オブザーバー 5名、事務局 12名
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度 地域ケア会議等開催状況</li> <li>2 生活支援・介護予防の取り組みについて (資料説明 及び 取り組みの紹介)</li> <li>3 福岡市地域包括ケア推進会議にあげる課題について</li> </ol>
主な意見、 検討結果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 議事1では、令和4年度の地域ケア会議開催実績及び12校区32回の高齢者地域支援会議の開催状況を報告。</li> <li>○ 議題2資料説明については、南区における生活支援・介護予防の取り組みを報告。</li> <li>○ 高齢者地域支援会議の事例の中から、校区の中の小さなエリア(団地)の課題に絞った生活支援・介護予防の取り組みとして2事例を紹介し、意見交換を行った。(以下、主な意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地に限ると高齢化率が高いがその周辺は若い方も多く住んでいるため、うまく協力して助け合えるようにしたい</li> <li>・集合住宅と戸建てでは交流が少なく隔たりを感じる</li> <li>・地域の高齢者の興味をうまく引き出して、外に出てきてもらいたい</li> <li>・支援を継続していくことは難しいが気長にやっていくことが大事</li> <li>・住民同士の会う機会をいくつも作って孤立する方を減らしていきたい</li> <li>・公民館や集会所への移動手段の課題がある</li> <li>・「医療・介護等事業所ネットワーク」と連携することで送迎支援を検討できないか</li> </ul> </li> <li>○ 議事3では、福岡市地域包括ケア推進会議に上げる課題として、以下のとおり事務局案を提案。特に質問なく了承された。 <p>取り組みを進める上での課題は、校区の実情に応じて町内会単位など身近な地域でとらえた方が、対応する取り組みが進んだり定着する場合もある。地域の実情に応じたきめ細やかな「地域課題に沿った生活支援・介護予防の仕組みづくり」の検討が必要である。</p> </li> </ul>

六角形の配置は 概ね校区の配置としています。  
 包括 (いきいきセンターふくおか) 圏域ごとに色を変えています。



☆ 補足 ☆

- 1) ふれあいネットワークは「実施自治会数/総自治会数」を表す。
- 2) ふれあいサロンは、設置数(延べ開催数)を表す。
- 3) よかトレ実践ステーションは、住民団体と施設版の合計数を表す。
- 4) マップには令和4年度に「認知症サポーター養成講座」を実施した校区(中学校開催含む)に事業実施団体である「全国キャラバン・メイト連絡協議会」のロゴ(右:オレンジ色ロバのイラスト)を掲載。



南区地域包括ケアの取組み状況(過去3年間における課題と取組みの推移)

青字：特徴的な取組み 赤字：残されている課題

資料 4-1

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
在宅医療・介護部会	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーパーソン不在、経済的困窮、8050問題、虐待、精神疾患や障がいを持つ同居家族への対応など、多問題を抱え、課題が複雑化しているケース支援において、支援者が適切に情報や課題を共有することが不可欠。</li> <li>・医療と介護の連携を促進させるために、地域ケア会議(圏域連携会議)を積極的に活用する。</li> <li>・コロナ禍でこれまでのような対面での会議が書面に変更されたり、研修への参加が困難となった。多職種の連携が停滞することのないようオンラインを活用した連携の工夫が必要。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合課題は当事者の問題意識がなく、表に浮かび上がってこないところが問題。また、コロナ禍での面会制限などもあり、これまで以上に問題が表面化しなくなった。様々な職種の気づきからの拾い上げが大切。</li> <li>・「地域包括ケアシステム」を「地域共生社会」という概念に広げていくことが大切。</li> <li>・引き続き、コロナ禍で連携が停滞しないようオンライン等の活用が必要。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が第5類になったことにより、様々な活動が再開。より良い連携のための顔の見える関係の再構築と相互理解の推進が求められる。</li> <li>・複合課題に対し、各種障がいや生活困窮など職種・分野を超えた連携に向けた取組みが必要。</li> <li>・独居・キーパーソン不在・認知症の方への支援においてACPへの取組みが求められている。市民や専門職にACPの啓発を続け、ACPのつなぎ方やつないでいくためのツールの検討が必要。</li> </ul>
	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会に、課題となっている8050問題や、地域における支援困難事例をテーマに取り上げることで広く多職種で課題を共有した。</li> <li>・コロナの影響で圏域連携会議の開催回数は減ったが、各団体が構成員への周知を工夫しケア会議への意識を高めるようにした。</li> <li>・医療や介護の現場ではコロナの影響が大きかったが、積極的にオンラインを活用することにより研修や支援の連携を実施することができた。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、複合課題の現状について、多職種連携研修会や各専門職での研修会等において共有し、職種による気づきの違いの認識を促した。</li> <li>・高齢者相談フローチャート及びチェックシート、救急搬送情報シートといったツールの活用を推進した。</li> <li>・オンラインの活用による研修や情報交換の場づくりにより、連携の促進を行った。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域連携会議や各種研修会にて対面での開催が増加し、「顔の見える関係づくり」の再構築を図っている。</li> <li>・障がい分野を含めて複合問題への事例検討を行った。分野の違いによる気づきの違いを共有した。</li> <li>・ACPIについては、市民へ終活セミナーとして普及啓発している。専門職へは多職種連携研修会や各種会議を通じ、取組みの必要性について啓発している。</li> </ul>
	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に虐待事案においては初期のアセスメントやマネジメントが重要な状況がある。</li> <li>・専門職が受講必須の研修機会においてアセスメント力及びマネジメント力の向上を図る必要がある。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により経済的課題を抱える世帯や孤立した世帯が増えたため、虐待・処遇困難相談が増加。</li> <li>・専門職による介入のタイミングやアセスメント力の向上とともに連携した支援が必要。</li> <li>・連携にあたってはオンライン開催やICT活用による連携手法の検討が必要。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長引くコロナ禍により認知症や経済困窮など複合的課題を持つ虐待・処遇困難相談が増加している。</li> <li>・対面でのカンファレンスや個別支援会議の開催とともに、コロナ禍にも対応可能なネットワークづくりの検討が必要。</li> </ul>
<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント力及びマネジメント力向上を目指した各団体による研修や定例会の開催。</li> <li>・包括と連携した取組みとして各区に相談窓口となる窓口委員を配置。</li> <li>・会議の開催手法をオンラインに変更したことで、移動時間短縮や感染対策できるとの意見もあり、業務の効率化や参加者増につながった。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により高齢者を狙った詐欺被害が増加。民生委員や区地域保健福祉課へ「ニセ電話詐欺」に関する情報発信し、防止グッズの情報提供を関係各所に行った。</li> <li>・タイミングやアセスメント力の向上及び包括社福士とのネットワークづくりを目的に勉強会を対面開催した。</li> <li>・コロナ禍にて団体全体での活動には取り組めていないが、個別支援会議への出席等で他の職種との連携を行いネットワークを作っている。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職間で対面での研修や教育の場が再開となった。</li> <li>・認知症高齢者の徘徊において、警察と連携した対応を行い、身元不明の場合は施設の協力により一時保護対応した。</li> <li>・虐待事例についてはCM等支援者からの通報や警察からの情報提供とともに、分離、措置入所時の施設受入れ協力など、関係機関・団体と連携して対応した。</li> <li>・成年後見制度のニーズが高まり申立て件数も増加し、包括の申立て支援や区における市長申立てについて三士会(弁護士会・司法書士会・社会福祉士会)と連携して対応した。</li> <li>・成年後見推進センターの取組みと関係機関の現状について理解を深める研修の検討を予定。</li> </ul>	
生活支援・介護予防部会	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で各団体の生活支援・介護予防活動に制限を受け地域活動が停滞した。</li> <li>・医療・介護等の専門職はコロナ対応に追われ、「医療・介護等事業所ネットワーク」の活動機会も減少した。</li> <li>・オンラインを活用した地域活動や研修などの仕組みづくりが必要。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長引くコロナの影響により、地域活動は開催規模・開催数の縮小傾向が定着。</li> <li>・医療・介護職はコロナの影響等で職員の入れ替わりが多く見られ、引継ぎがうまくいかなかった「医療・介護等事業所ネットワーク」では地域との繋がりがなくなった団体も見られた。</li> <li>・オンラインを利用した地域活動や会議開催は地域に馴染まず定着しなかった。</li> </ul>	<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援や介護予防の取組みは、校区の実情に応じて「団地」や「町内」単位などの身近な地域で課題を捉えることで、その取組みが進んだり定着する場合もあり、きめ細やかな地域課題に沿った生活支援や介護予防の仕組みづくりの検討が必要。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類となったことに伴い、地域活動はコロナ以前のレベルまで本格的に再開されるようになるが、地域の生活支援・介護予防を支える担い手が不足している。</li> <li>・16の「医療・介護等事業所ネットワーク」の活動の活発さに差が生じている。</li> </ul>
	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度はほぼ停止していた地域活動が、基本的な感染対策の徹底、開催規模・開催数の縮小等で再開される地域も出てきた。</li> <li>・マスクや暑中見舞い・年賀状等を配ることで高齢者の安否確認活動を行うなどの工夫が見られた。</li> <li>・前年に比べ、地域における生活支援・介護予防の各種事業が計画されるようになるもコロナ警報等の影響により中止を余儀なくされることが多かった。</li> <li>・「医療・介護等事業所ネットワーク」の主体的な活動はできなかったが、「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」への協力を依頼することで活動機会をつくった。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密になるのを避ける目的で参加人数を絞った会議が開催されるようになり、高齢者地域支援会議については小学校区単位よりももう少し小さな「団地」や「町内」単位での会議開催実施が増えた。</li> <li>・「医療・介護等事業所ネットワーク」としての主だった地域活動はできなかったが、地域ケア会議等での機会を捉え、横の繋がりによる協力意思の確認がとれた。</li> <li>・徐々に対面での研修や会議開催が再開されるようになり、各団体同士の情報共有を図り、顔の見える関係づくりに取り組んだ。</li> </ul>	<p><b>取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「団地」や「町内」単位での高齢者地域支援会議を開催。</li> <li>・地域活動はコロナ以前のレベルまで本格的に再開。</li> <li>・各「医療・介護等事業所ネットワーク」で定例会が再開される。</li> <li>・16の「医療・介護等事業所ネットワーク」の連合体「南区いいともネット」における情報共有を図った。</li> </ul>



## 福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について

在宅医療・ 介護部会	<p>● <u>複合課題に対応できる分野を超えた多職種相互理解と連携の強化</u></p> <p>(背景) 複合課題に対しては、支援者がより早い段階で気づき、深刻化する前に適切に介入することが重要であるが、複数の分野に掛かる職種の専門性については互いの理解が進んでおらず、役割分担が難しいという課題がある。 地域共生社会を目指すうえで、多職種が課題共有・相互の役割の理解を進め、多面的な視点を持って支援できるよう、連携を強化することが必要であり、分野を超えての気づきと共有の積み重ねが大切である。</p>
権利擁護 部会	<p>● <u>適切な介入とアセスメント力の向上及び多職種による連携した支援</u></p> <p>(背景) 高齢者人口の増加に加えて新型コロナウイルス感染症の影響等により、経済的課題を抱える世帯や社会的に孤立した世帯が増え、従来の虐待事例に加えて高齢者分野以外にも対応が難しい課題を複合的に抱えているケースも増えている。 そのような中、本人や家族等の世帯の状況から課題を的確にとらえ、迅速かつ適切な支援を進めるためには、専門職による介入のタイミングやアセスメント力の向上とともに、課題に対応できる多職種による連携した支援が必要である。</p>
生活支援・ 介護予防 部会	<p>● <u>地域課題に沿った生活支援・介護予防の仕組みづくり</u></p> <p>(背景) 認知症高齢者や閉じこもりがちで健康に不安を抱える高齢者が今後も増えると予想される中、見守りや健康づくりなどを進める上での課題は、校区の実情に応じて、全体の課題として捉えるばかりではなく、町内会単位など身近な困りごととして課題を捉える必要がある。 今後の生活支援・介護予防分野においては、地域の実情に応じ、課題解決に向けたきめ細やかな仕組みの検討が必要である。</p>

## 令和5年度南区地域包括ケア推進会議等開催スケジュール

会議種別		主な内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南区地域包括ケア推進会議		(1)地域の関係機関・団体等のネットワーク構築に関する事 (2)高齢者地域支援会議や圏域連携会議では解決できない地域課題の抽出・検討に関する事 (3)区の課題解決に必要な地域づくり・資源開発に関する事 (4)区の課題解決に必要な政策形成に関する事 (5)その他、区における地域包括ケアの推進に関し必要な事項									12/14 (木)			
専門部会	権利擁護部会	(1)権利擁護に係る機関・団体等のネットワーク構築に関する事 (2)権利擁護に関する課題の抽出・検討に関する事 (3)権利擁護に関する区の課題解決に必要な取り組み・政策形成に関する事 (4)権利擁護等の推進のために必要な研修会、意見交換会、事例勉強会等の開催に関する事 (5)その他、区における高齢者の権利擁護等の推進に関し必要な事項			6/26 (月)									
	生活支援・介護予防部会	(1)医療・介護分野の専門職と地域の自治組織等のネットワーク構築 (2)生活支援・介護予防に関する地域課題の抽出・検討 (3)生活支援・介護予防に関する情報交換 (4)その他、部会の目的達成に必要な事項の検討及び協議							10/3 (火)					
	在宅医療・介護部会	(1)医療、介護分野に係る機関や団体、専門職等のネットワーク構築に関する事 (2)医療と介護の連携に関する課題の抽出・検討に関する事 (3)医療と介護の連携に関する区の課題解決に必要な取り組み・政策形成に関する事 (4)医療と介護の連携の推進のために必要な研修会、意見交換会、事例勉強会等の開催に関する事			6/26 (月)									
圏域連携会議		(1)個別支援会議等において事例から抽出された地域課題の検討 (2)圏域における多職種連携のためのネットワーク構築 (3)必要な地域資源の開発等												
高齢者地域支援会議		(1)個別課題の蓄積等によって地域における課題を発見 (2)日常的な困り事等の課題について、小学校区等の身近な範囲でネットワークの構築 (3)地域における支え合い助け合いの仕組みづくりに向けた取り組み等												
個別支援会議		(1)個別支援会議：医療・介護の専門職と地域住民が連携し、情報共有、見守り体制づくり、関係者間の連携体制強化 (2)介護予防型個別支援会議：自立支援・介護予防の観点を踏まえ、課題解決・状態の改善・生活の向上に向けた検討												
在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会 および市民啓発事業 (委託事業)		【多職種連携研修会】 在宅療養患者にかかわる専門職が相互に役割を認識し、連携強化のための実践的な手法等を学ぶ						9/11 (月)			12/19 (火)			※予定
		【市民啓発】 在宅医療や在宅での看取りのニーズが高まることから、在宅医療に関する知識や意識を深める												